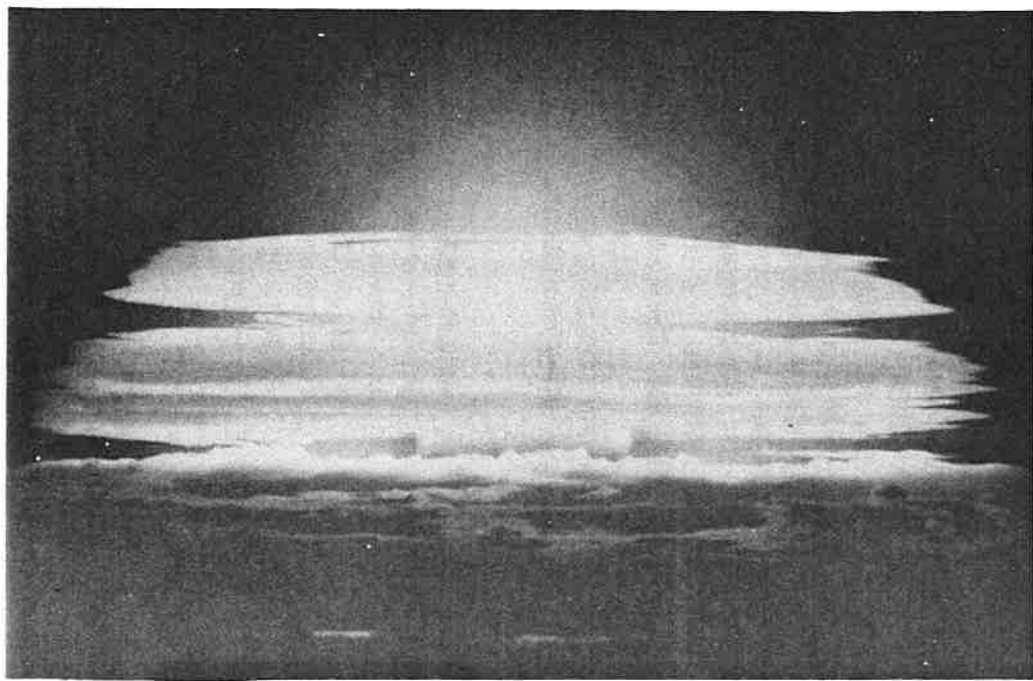


福竜丸だより

(財) 第五福竜丸平和協会
〒136 東京都江東区夢の島3-2
都立・第五福竜丸展示館内
電話 (521) 8494

都立・第五福竜丸展示館ニュース



ビキニ水爆実験の原子雲

「核の冬」が問題になっている。大規模な核戦争がおこれば、一瞬にして数億人の生命が失われるが、たとえ生きのこった人がいても、二次災害として起る気候変動により、死に至ることを示している。都市や森林の火災から生ずる大量の煙やススが日射を大巾にさえぎり、世界中の気温を四〇度くらいひくめ地球を凍らせてしまうというのである。

今年の二月、広島で「核戦争が環境に与える影響」の国際会議が開かれた。私は「核の冬」の提唱者であるクルツェン博士(西独)におあいし、話しあう機会を得た。

しかし核戦争のおそろしさは、「核の冬」の到来にあるのではない。おそろしいのは、あくまで核兵器の爆発力、熱線、放射線であることを忘れてはならない。いまや地球上には約二万メガトンの核兵器が存在する。たとえその一歩が爆発したとしても、広島・長崎原爆の一万三千倍にも達し、これだけで人類絶滅をもたらすに十分である。

私たちは「核の冬」より、やはり広島・長崎の「核の夏」をこそ忘れてはならないのである。(第五福竜丸平和協会理事)

* 通常爆薬に換算した量。メガトンは百万トン。二万メガトンは二〇〇億トンのこと。

「核の夏」

猿橋勝子

● 100万人参観者運動を!

85年5月来館者数 7,880名
通算1カ月平均来館者数 5,190名
当月1日平均来館者数 292名
通算来館者数 560,533名

(は)

来館者の声から



せんそうは悪いことだから、これからはぜったいしないほしい。このようなすてきなふねを見て、とても思いにのこった。だから、ぼ金をしたのでやくに立ててほしい(Y・E)。

何を書けません。

もっと多くの人に、まっしろぶね、を見てほしいと思う。

私は筑波大の学生で、筑波のアパートにひとり住んでいます。今日は神奈川の実家に帰る所です。国道六号を日本橋方面に向かっていたのですが、うっかり道を間違えて江東区の方へ来てしまったのです。昔、今からどのくらい昔になるのだろうか?十才位の時でしょうか、学校で東京都の勉強を社会の時間にやっていたので、この江東区の木場などに母といっしょに来たことがあった。

その頃のことかなんかになつか

しくなって、「そうだ、夢の島にでも行ってみよう!」と思いついたのである。夢の島というと、単にゴミの収積所になっているだけの島だとばかり思っていたら、実は大きな公園があるではないか、

そして、なんとこんな所に「第五福竜丸が!」驚きと感動!思わず資料を読んで、目が熱くなるのを感じました。普だん生活している分には、全くこのようなすさまじい事件が起こったということなど、思いつきもしない。マスコミなどで、この事件のことは耳にはしていたが、実際に目の前にしてみても非常にショックを受けた。私たちは、過去の悲劇を決して忘れてはいけない!親から子へまた、その子から次の子へと語り継がなければならぬ!語り継いでいく上で、この資料館はなくてはならないものだ!私は確信する!

最後に、友達と一緒に来た人や修学旅行で来た人達は、今度はひとりで来てみよう!感じ方が少しは違うと思うよ!(筑波大学三年上野敬士)

原爆は許せないと思います。特に何も知らない子どもまでその被害

害が及んだのを知って、とても哀しく思いました。もう二度もくだらない争いごとで、他人を巻き込むのはやめてほしい。核兵器とか使えば、どのくらいの被害になるとかわかっているのに作るのをやめようとしなさい。一体、いつになったら、人は戦うことをやめるのか?人を傷つけることをやめるのか?(東大二年 大久保)

平和を求めることは、人間として当然の欲求である。今、この核戦争の危機が高まっている時、我々は何をするべきなのだろう。核戦争になれば、もはや終しまいなのだから。そうなる前に、僕らができる限りのことをしたい(東大二年 藤原)。

歴史を専攻する自分にとって強烈な印象を与えたことはあの恐ろしい事故と同時にその後の市民の方々の心強い運動でした。スクラップ同然の船が今こうして保存されていることがいかに嬉しかったことか!今多くの人にこの船を!それはまた、原爆禁運動を知り、多くの人の声なき声をきくこと!見せたい(早大三年 大塚照彦)。

編集後記

▼ 広田重道氏が亡くなられて、三年が過ぎた。夫人のヨシさんは現在、日野市に在住。毎日署名集めで真黒に日焼けしてしまっただの近況が寄せられた。展示館では今、生前、広田さんの念願だった船の補修工事が行なわれ、ヨシさんが記念樹として植えられた久保山碑脇のカルミヤの花が、ピンクの金米糖のような愛らしい花を咲かせている。―「ヒロシマ・ナガサキアピールたざさえ、夫の面影しのぶ 広田ヨシ」

▼ 昨年、毎日新聞静岡版に連載され、JCJ奨励賞を受賞した若い二人の記者による「被ばく30年 第五福竜丸事件の周辺」が、大幅に加筆され本になるという。出版され次第たよりでもご紹介したい。

連載 ヒロシマ・ナガサキ被爆四十年の中で
その一隅を照らす (1)

- 被爆四十年の夏を迎えようとしています。
- そこで、福竜丸だよりでも、私たちの運動に
- 関係ある方々に、これまであまり知られるこ
- とのなかったことに触れていただき、四十年
- をふり返ってみたいと考え、今月より「ヒロ
- シマ・ナガサキ被爆四十年の中で」その一隅
- を照らす」と題して、新しく連載を企画しま
- した。
- ご期待下さい。

岡本弁護士と
原爆裁判

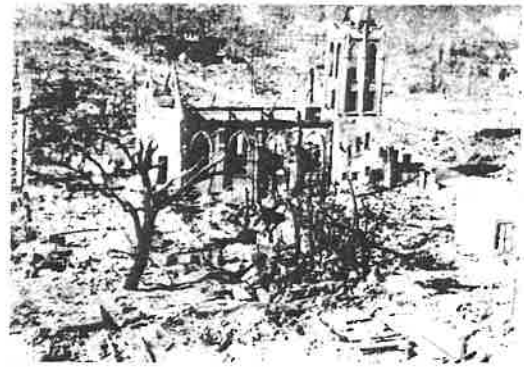
松井康浩

東京地方裁判所で、アメリカの広島・長崎への原爆投下行為は、国際法に違反する、という判決の言渡しがあったのは、一九六三年一月七日であった。あれから二

ことは、被爆四〇周年であり、第五福竜丸がビキニでアメリカの水爆実験によって被曝してから三年になる。この間に原水爆の禁止と被爆者の援護に関する諸活動は大きく発展したが、しかし、核軍拡は果てしなく続き、核爆弾の炸裂による人類の絶滅と地球の破壊の現実的危機の時代を迎えるという悲しむべく、また、怒りを押ええない事態となっている。

怒りこそ行動の起爆剤である。岡本尚一弁護士が、原爆裁判という、途方もないことを思い立ったのも、怒りのしからしめるところであった。

岡本は、一九九二年六月一日和歌山県の医家に生まれた。父が病弱であったため、新宮中学卒業



後は進学を断念、独学で一九二五年高文司法科試験に合格し弁護士となった。

戦前の岡本は、清瀬一郎門下で主として特許、実用新案など工業所有権関係事件を扱っていたが、彼を怒らせたのは、東京国際軍事裁判で陸軍省軍務局長・武藤章の主任弁護士としてアメリカと相対したことを契機とする。岡本が、日本のファシズムや軍国主義についてどのように考えていたのか知ることにはできないが、日本の戦争犯罪人を裁くアメリカが、自らの極悪非道な原爆投下行為について一言の謝罪もしないことを怒ったのが、アメリカ政府とトルーマンの責任を追及する原爆裁判の提起

それは当時、途方もないことであつた。岡本の真剣な呼びかけに対し、弁護士も被爆者も応ずる者はきわめて少数であつた。弁護士になつたばかりの私は、広島出身ということと学徒出陣による体験と思索から、訴訟提起の準備段階から彼に協力していった。訴訟は一九五五年四月に提起されたが岡本は不幸にして一年後に病に倒れ、判決を待たず一九五八年四月五日に没したのであつた。

今日、原爆判決は、核兵器使用の国際法違反性を明確にし、かつ被爆者援護をしない政治的急慢を指摘した点できわめて意義が高く核兵器の全面禁止と被爆者援護法制定運動に大きく寄与していると考えられる。その原爆裁判を思いつき訴訟を提起する中心的役割りを果たした岡本弁護士の功績は大きいであらう。

弁護士として大家の風格をもつ彼は、また幼少の頃から短歌をたしなむ歌人でもあつた。

東京裁判の法廷にして想なりし
原爆民訴 今練りに練る
朝にも夕にも凝るわが想ひ
人類はいまし生命滅ぶか
夜半に起きて被害者からの文読
めば
涙流れて声立てにけり
(弁護士・平和協会監事)

原爆で
失われた文化財

岩垂弘

私は絵を描くことはない。が、絵を見るのが好きだ。

私が、その画家の名を知つたのは、今から二十六年前のことである。知人宅にあった美術雑誌のグラビアで、たまたまその画家の名と作品を見つけたのだつた。

その時、その画家の名が私の脳裏に焼き付いたのは、一つには、その画家の名が、日本人離れした珍しいものだったからである。

その画家の名は、巖光といった。「あいみつ」と読む。一見、中国人の名前のように見えるが、れっきとした日本人だ。もっとも、巖光は雅号で、本名は石村日郎という。

それに、その時、この画家が私にとつて忘れたい存在になつたのは、いま一つ、別な理由があつた。



巖光「自画像」1944年

との二人展に大量の作品を出品しているが、その時出品されたもので現存しているものは極めて少ない。失われた作品は広島に投下された原爆によって焼

に見せてくれた知人の話によつて、その画家、つまり巖光が、戦争に協力しなかつた数少ない画家の一人であるうえに、自らも戦争によって、その短い生涯を閉じねばならなかつた戦争犠牲者であることを知つたからであつた。「日本の画家は過ぐる太平洋戦争でこぞって戦争に協力、戦争画を描いた。しかし、巖光は一枚の戦争画も残さなかつたし、自らも戦地で死んだ」という知人の話が、私をしてこの不遇の画家への関心をかきたてたのである。

その後、私を知つたところによれば、巖光は一九〇七年(明治四十年)、広島県千代田町に生まれ、七歳の時、広島市に住む父の弟の養子となつた。九歳のころから絵を描くことに才能を示すようにな

る。高等小学校高等科卒業後、広島市内の印刷所に勤めるが、画業への希望を捨てがたく、十六歳の時、大阪に出て、私塾で絵を習う。

一九二四年(大正十三年)に上京、貧しい生活に耐えて絵を描くが、一九四四年(昭和十九年)五月に召集を受ける。中国に向かい、武昌で敗戦を迎えるものの、間もなく病を得て入院、一九四六年(昭和二十一年)一月、上海の病院で戦病死する。三十九歳だつた。いずれにしても、二十六年前に私がこの画家の名を知つた時は、ごく一部の人間の間で高い評価を与えられていたものの、一般にはほとんど知られていない物故画家であつた。

しかし、その後、巖光に対する評価は年ごとに高まり、今では、巖光を抜きにしては近代日本の美術史は語れぬほどの存在になっている。

だが、今、彼の作品を見たいと望んでも、その数は極めて少ない。現在、確認できている作品は油彩が約六十点、素描が約七十点に過ぎない。

なぜ、こんなにも作品が少ないのだろうか。極めて寡作の画家だつたのだろうか。いや、そうではなく、原爆によって作品の多くが失われてしまつたからである。関係者の話によれば、巖光は一九三六年(昭和十一年)に広島市で開かれた芸州美術協会総合展覧会と一九三八年(昭和十三年)はやは

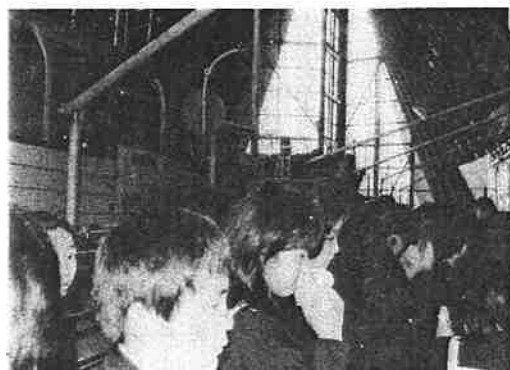
失したものと同推測される。さらに、巖光にとって悲劇的なのは、養父母もまた、原爆がもつて死亡したことである。原爆投下時、養父母は広島市富士見町に住んでいて被爆した。その後、二人は故郷の千代田町に引き揚げたが、四、五年のうちに相次いで亡くなつた。原爆症だつたといわれている。

私は、核兵器の存在を許せないとと思う。「地球よりも重い」とされる人間の生命を、大量に、しかも一瞬にしてこの世から消滅させてしまうからだ。と同時に、人類にとつてかけがえのない貴重な文化財をも、破壊しつくしてしまふからである。優れた絵画もまた、人類の遺産ともいふべき文化財であり、一度、焼失したらもはや永遠にとりもどすことができない、というのが、私の見方である。

(新聞記者)

福竜丸のふるさと濡れては芽ぶく反核 新俳句人連盟、焼津吟行句を特集

水雨たちまち久保山愛吉の体温
毎年の久保山忌句会などで第五福竜丸とはつながりの深い句人の会である新俳句人連盟の機関誌『俳句人』が五月号で、『ビキニデー 焼津吟行』の特集をくんだ。
三月一日、二日と被災31周年の三・一集会に参加し、久保山愛吉墓前に花二輪を捧げ、焼津港・魚



市場はじめ町を歩き、安倍川添いに服織・竹細工・賤機焼きの工房を訪ね、旧東海道から丸子の宿まで吟行を行なったたたくさんの句と吟行記が載せられている。なかでも『ビキニデーの焼津』とする競詠は秀句ぞろい。古沢太穂会長から当日の参加者の作品が約百句も。田中夕霞さんの吟行記は流麗なタッチで、三次までおこなったとい

さながら和歌山デーのごとく

修学旅行で紀南の中学校見学

広島へ長崎へ、平和行進が出発したあとの展示館は、六月にかけ和歌山県から修学旅行で見学にきた中学生たちの目に囲まれた。
潮岬・串本・古座・太地：紀州南端の漁港から、田辺市の二百人近い学校から、熊野の山奥の小さい分校からと約20校。郡部の過疎の十名前後の学校は三、四校、連合して見学する。この四、五年つづけられているが、今年はグン

う句会の力作を紹介している。五年前に第一回久保山忌句会を展示館でひらいてから、『焼津は久保山愛吉さんの、そして第五福竜丸にたいする私たちの思いの原点』と焼津吟行を願いつづけ、広島・長崎被災40周年の今年、やっと実現したもので、一句一句に詠む人の熱い思いがこめられている。
愛吉の墓前蘭一枝が課す言葉
ビキニ忌の焼津雨粒灰と光る
『俳句人』は千170豊島区池袋本町1-15-19 徳富方新俳句人連盟
又は平和協会へ。一冊四〇〇円。

と増加し、ある日は五校がつぎつぎと訪れ、さながら和歌山デーのごとく。郷里の船に一人ひとり熱い瞳をそそいだ。
カンパも折鶴もたづさえ、事前に『私たちの船』が遭遇した事件をじっくり勉強してきた様子がわかり感動的。このあとはデイズニールランドと明るく笑いながら、ただでコースの中でここが一番見たかったところ』と女子中学生

第五福竜丸平和協会第65回 理事会の概況

- ▼日時 85・5・13 (月) 午後0時半〜2時
- ▼会場 神田・学士会館
- ▼参加理事 監事 三宅泰雄、斎藤鶴子、猿橋勝子、田沼肇、本多喜美、松井康浩、楡山義夫(八委任状)
- (1) 第64回理事会議事録承認
- (2) 活動報告(略)
- (3) 昭和59年度決算と監査報告
- (4) 役員改選 理事7名・監事2名を選出。(氏名前号紹介)
- (5) 評議員・顧問選任 評議員18名・顧問1名選任。(同前号紹介)
- (6) 当面の活動方針 ①船体修理の促進(口資料室開設へ、事務所の補強と結合して対都接渉を強化) ②財団法人にふさわしい財政確立へ寄付金収入の増加、賛助会員の拡大と会費の増額など会長の手紙を会員、たより読者に送り要請する
- (二) 6月10日、関係者にひろくよびかけ開館9周年の記念祝賀会を開く、修理中の船を視察できるように展示館での見学会を含めた祝賀会の計画をたてる(次回理事会は七月二十二日(月) 神田・学士会館を予定)
- (7) 議事録署名人選任(略)

展示館開設九周年記念祝賀会ひらく

いま、新たな航海へ

六月十日、江東区東陽のサニー・サイドホテルで第五福竜丸展示館開設九周年記念祝賀会が開かれた。今年には福竜丸の本格的な補修工事が始まったため、例年と趣向を変え、午前中、展示館で補修中の福竜丸を見学、午後、地元江東区で祝賀会を開いた。



あいにくの雨模様にもかかわらず、元第五福竜丸乗組員の大石又七氏、わざわざ長崎から参加され

た山川新二郎氏はじめ約五十人の参加があった(参加者名別記)。

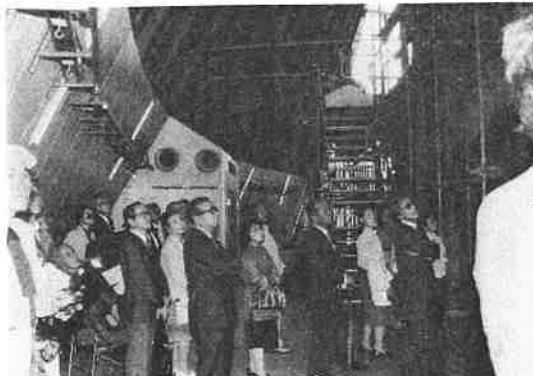
会は昨年入院生活を送り全快し元気な姿で出席した三宅会長のあいさつ、石井あや子評議員の音頭による乾杯によって始められた。初めて参加された尾崎隆氏は、「これまで福竜丸の保存のために力を尽された方に敬意を表すると共に、今日参加したことは、今後の自分の人生に役立つと思う」、かつて、ビキニ水爆被災資料集の編集にもたずさわった林茂夫氏からは、最近発表された一九五四年当時のアメリカの外交文書にふれ「第五福竜丸がスパイをしていたというコール原子力委員長の当時の発表がいま、国家機密法が問題になっているとき、あらためてだされてきたことに注目しよう」など発言があり、例年以上の盛会となった。

開設十周年に向けて

猿橋勝子理事は閉会のあいさつで「第五福竜丸という小さな船を中心に、平和の問題、反核の問題を考へることは、これからさらに

大事な時期になっていく」と述べ、「新たな航海」となる展示館開設十周年の来年をめざし、よりいっそうの協会への支援を訴えた。
祝賀会に先立って行なわれた、福竜丸の見学にも約四十人が参加。参加者は文化財保存技術協会の日塔和彦氏による工事状況の説明を聞き、船内に入り、船体補修の困難さを実感すると共に、工事の完成を願った。

祝賀会に先立って行なわれた 工事状況の説明会



●祝賀会に参加された方々(敬称略、五十音順)
浅野道風、浅見善吉、石井あや子、岩垂弘、漆原淳俊、江藤勇一郎、大石又七、大宮龍市、小笠原英三郎、尾崎隆、金沢照子、上岡将高、唐笠菊子、川井龍介、川崎昭一郎、川根真也、岸本勇夫、木下悦子、桐生広人、草野信男、斎藤鶴子、桜井澄子、猿橋勝子、白井千尋、菅原健一、関屋綾子、高山文孝、田中義美、田中夕霞、田沼肇、徳富いさを、斗ヶ沢秀俊、長尾当代、日塔和彦、秦小夜子、服部学、林茂夫、福山秀夫、本多喜美、松井康浩、三尾喬英、御園雅、三井周二、三宅泰雄、望月門八、山川新二郎、山崎元、安井田鶴子、吉田嘉清、吉村道興。

「想いのアン」上映実委 より募金

「想いのアン」を成功させることが出来ました。残りしましたお金を少しですがカンパさせていただきます。――「想いのアン」が江上映を成功させる会実行委員会より四六、五六五円の募金が寄せられた。ありがとうございます。